

2016 4/12

No.2016

毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



横浜赤レンガ倉庫（横浜市中区）で「フラワーガーデン2016」が開かれている。ビオラなど約3万5千株が植えられ、広場を彩っている。24日まで。初の試みとして、プロジェクションマッピングによる投影も。



政経かながわ

2016 4/12 No.2016

contents

視点・点描	3
マイナス金利と将来不安	
講演録	4
一流とは何か～ トップアスリートの真実 ノンフィクション作家 小松 成美	
経 済	8
昼発着の羽田・NY線就航へ 日米合意、成田の沈下避けられず	
政 治	10
消費増税、反対64%へ拡大 民進党に「期待せず」67%	
国 際	12
習政権が進める「新型都市化」 内需拡大で持続的成長目指す	
くらし2016	14
立ち遅れるたばこ規制	
広告珍談	16
広告はたのしい⑬ 2等車だよ！	
NNAアジア経済リポート	17
会員のページ	18
設立50周年は4月19日(その21)講演録抄録⑪ 会員の動き	
会員のページ	19
設立50周年は4月19日(その21)講演録抄録⑪	

事務局だより

◇設立50周年記念講演会、

会員交流会

2016年4月19日（火）

ホテルニューグランド

▽記念講演会

午後2～3時

本館2階「レインボーボールルーム」

講師は歌手、女優のあべ静江さん

演題は「私の歩いてきた道～みずいろの手紙と私」

▽会員交流会

午後3時15分～4時30分

タワー館3階「ペリー来航の間」

◇横浜定例講演会

2016年5月12日（木）

午後1時30分～3時

ロイヤルホールヨコハマ5階
「リビエラ」

講師は日本銀行横浜支店長の
岩崎淳氏

演題は「最近の金融経済情勢
について」

視点



マイナス金利と将来不安

筆者が誰で、文章もつまびらか

には覚えていないが、四半世紀も
想起したのは2カ月ほど前。マ

前に読んだコラムのことを最近思
い出した。

生命保険に入ったとき、人は大
人になる。なぜなら、保険金を受
け取るのは決して自分ではない。
大切な人のために多額のお金を出
すことを決めたのだから」という

趣旨だった。

大手信託銀行は4月中旬から、
ファンドなどから受託した資金の
一部に手数料を課す予定だ。一部
の顧客が、マイナス金利の負担を
転嫁される形となる。さらに、マ
イナス金利の影響で圧迫された収

益を補うため、各種手数料の引き
身も、個人年金保険に入っている。

公的年金では老後の生活資金が足
りないのではないかという将来不
安などが加入の動機であり、ライ
フプランを考える上で定番の商品

だ。

日銀のマイナス金利政策の評判
が芳しくない。利ざやの縮小で收
益悪化が強く懸念される金融業界

では、メガバンクや横浜銀行の労
働組合が今春闘でベースアップの
要求を見送った。デフレ脱却には

賃金のアップが重要だと経済団体
などに賃上げを要請してきた安倍
政権にとっては、自ら首を絞める
ような展開となつた。

大手信託銀行は4月中旬から、
イナス金利導入の影響で、貯蓄性
の高い一時払いの終身保険と個人
年金保険の一部を販売停止にした
保険会社が出たと報じられたとき
だ。

日本の国内総生産（GDP）の
6割を占めるのは個人消費だ。個
人消費の不振は、景気の低迷に直
結する。普通の大人なら、分かる
ことだと思うのだが。

今後、政府や日銀が期待したよ
うな効果は出ず、さまざまな問題
が表面化していくと思うが、私は
やはり、冒頭に紹介した貯蓄性の
高い保険商品へのダメージが、決
定的だと思う。

2等車だよ!

掲出した、いちばん下をご覧んあれ。おもしろい広告である。

新聞の最下段をフルに使って、周遊旅行をアピールしている。

右から左へ、「吉野・觀桜・伊勢

高野・琴平・宮島・瀬戸内海

大阪・京都・廻遊二等列車」。

今までいう旅行ツアーハイの広告。

1922(大正11)年の春、掲出された。広告主は平和旅行会。すでに44回目となる。

スタートは4月7日朝、帰りは4月23日の朝、いずれも東京駅。

12日間のツアー、会費は126円、汽車・汽船・宿料・昼食など

載されている。「名古屋・鳥羽・二見浦・山田・奈良・法隆寺・初瀬・

阪でおりると55円。そのころ新橋から大阪まで6円4銭、2等車だからもっと高いだろう。駅弁は20

銭のころ。

当時の列車は1912(明治45)年に制定された、3段階で

あつた。普通車と1等車、中間に

2等車。現在のグリー

ン車はもとの1等車に代わるものとされる。

超満員の湘南電車で、勤したところ、グリーン車はうらやましかった

なー。

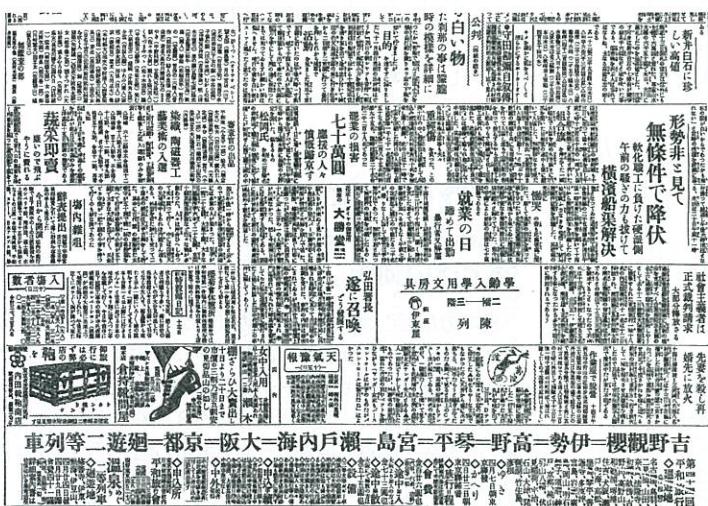
島・岩国・広島・岡山・明石・舞子・須磨・神戸・京都・桃山・男山八幡・伏見稻荷・宇治・石山・大津・琵琶湖・竹生島・彦根」なるほど。その年、東京駅前に丸ビルができた。「驚くなれ」、男女1万人が通勤し、外来者が3万人と新聞

紙のころ。理学者アインシュタインが来日した。世間では「アイタイ性」と呼んで、お遊び会話がはやつたといふ。たとえば

「ぼくらは静止しているようだ

が、この汽車が走っているから絶対的静止じやない」。「ぼくが寝台の上の棚に寝ていると、お前が見て上だと思う棚も、ぼくからは下になるわけだ」と亭主。「それじゃ、つまり、あなたの物はわたしの物で、絶対的にあなたの物ではない。すべて相対性だというわけね。わたし、アインスタインの説に大賛成よ」と、女房が皮肉る。マンガ家・北沢楽天がいったとか。

そんなことを寝台車の上と下でしゃべりながら、旅をつづけたにちがいない。



大阪・瀬戸内海・高松・和歌浦・堺港・住吉・

(図)旅行ツアーハイの広告・1922(大正11)年春、新聞に掲出